

大阪大学社会人講座運営会議（リーダーシップ教育研究会特別会議）

議事録

文責：大阪大学大学院国際公共政策研究科
博士前期課程 1 年有本はるか

【日時】 7 月 3 日（金） 15：00－16：00

【場所】 大阪大学豊中キャンパス OSIPP 棟 6 階プロジェクト研究室

【内容】 1. 社会人講座のプログラム詳細について

【参加者】（五十音順・敬称略）

大澤 恒夫（弁護士・大阪大学大学院国際公共政策研究科 客員教授）、木川田 一
榮（大学教育実践センター教育実践研究部キャリア教育支援部門教授）、小林 昭
生（大阪大学大学院国際公共政策研究科特任教授）、下村 眞美（大阪大学大学院
高等司法研究科教授）、高島 徹（大阪大学産学連携推進本部准教授）、多胡 圭
一（大阪大学名誉教授・千里金襴大学学長）、野村 美明（大阪大学大学院国際公
共政策研究科・高等司法研究科教授）、福井 康太（大阪大学大学院法学研究科准
教授）、大和谷 厚（大阪大学・医学部保健学科長）、和住 麻矢（株式会社ポラ
リス・セクレタリーズ・オフィス 代表取締役）

1. 社会人講座のプログラム詳細について

配布資料「(仮称) リーダーシップ集中セミナー『危機を乗り越えるリーダーシップ』」参照

* 司会：野村先生

<10 月 17,18 日の講義タイトル>

* 仮称『リーダーシップ集中セミナー『危機を乗り越えるリーダーシップ』』

・『危機を乗り越えるリーダーシップ』でも『リーダーシップ集中セミナー』でもよい
→グローバルは不適切（グローバルな内容がないので）

<10 月 17 日の具体的内容について>

(1) 講義内容：野村先生の挨拶

- ・ 15 分の挨拶は長い。おそらく 5 分くらいしかかからない。
- 残りの 10 分を小林先生へ譲る。
- ・ 野村先生の挨拶は 10：00～10：05 へ変更

(2) 講義内容：leadership 教育の意義（小林先生担当）

・当初は1時間15分だったが、1時間半の講義にする。

→時間変更：10：05～11：30まで小林先生。

[理由]*聞く人が飽きないように伝えきるため=来た人本意

講義に来た人のために、まずは「リーダーシップの教育の意義」、つまり「リーダーシップは本当に学べるか or 教えられのるか」ということから入らないといけない。それから自分の体験を出して振り返りを話す。また、具体例を出さないと聞く人が退屈するので、具体例も出す。→これを全ていれると1時間半は必要。

(3)講義内容：学習方法（野村先生担当）

- ・適当な見出しを募集→<人はいかにして学べないか>をタイトルにつける。
- ・学習を阻害しているもの、すなわち変化を阻害しているもののお話をする予定。
- ・小林先生の前の話との有機的な繋がりが必要→聞く人は有機的でないと頭に入らない。
- ・前の小林先生のお話「リーダーシップは本当に学べるか」と野村先生の「学習を阻害するもの」の話は有機的に結びつく。

(4)昼休憩

- ・大学内でも食事は可能：学生食堂。

(5) leader の実例（三人のリーダー）

- ・現在の候補者は全員海外へ出張。

→新たな候補者をこの場で推薦。

[ポイント]：どのような人材がよいか

→大企業、中小企業。小企業でも輝いて見える企業には人は寄ってくる。

*候補者

①高柳様：IBM から社長候補だったが現在は中小企業の社長。合併に次ぐ合併で、吸収されてしまった企業の社長をやっていて吸収した側の社長になった経験を2回している。そのプロセスを乗り切ってきたことは凄まじく難しい状況をマネジメントしてきた。

→過去の実績を講義してほしい。

②ミツカン？（小林先生推薦）：もともと阪神間の酒屋で、発酵ベースにした技術で健康サプリメントを作っている。時代の変化に応じて業態を変えていくという秘訣を有する。そして社長が必ず礼儀正しく専務や常務に挨拶する。

→ただし、韓国や中国からも見学が殺到しているので講義の時間がとれるかは不明。

③IAIの石田様（大澤先生の推薦）：静岡の大型産業用ロボット会社。

④パナソニック：中村さんの片腕で、大改革を過去も現在もやってきた人物の講演希望
→後日打診。

⑤門田先生：大阪大学現副学長。外科医。認めない人を説得させていくバイタリティのある先生。→後日、下村先生が依頼する予定。

⑥瀬谷さま（大澤先生推薦）：現在武装解除のネゴシエーター
→NPOの資金にしたいということで講演料を最低10万は必要とのこと。

(6)課題：他人の観察
・タイトルを『先達から学ぶ』へ変更。

(7)課題：『観察成果振り返り』
*適切な題はないか？
『何を学んだか』→『Lessons to Learn 何を学んだか』→『気づきの共有』

・『アハ・エクスペリエンス (Aha! Experience)』を括弧にして、表題の後につけておくか？
→副題は後日考慮することとする。

(8) グループワークによる振り返り（木川田先生担当）

- ・やり方：5人で1グループ作る→自分たちが何に一番気づきがあったかということをお話し合う→1人3分で話して、それが終わったら今度は違う人に話す→最後に、自分が聞いた中で一番感銘をした人の背中に触る。
- ・結果：自分で話していくうちに段々気づきのストックが自分の中でできて、何度も同じ話をしていると、人の話を吸収しているので、自分の中で洗練されてくる。

(9) 異業種交流会

- ・費用6000円は非常に高い。
- 4000円以下に抑える or 別の場所に変更するか。
[理由]→完全な食事にする必要がない。

(10)司会やファシリテーターは必要か

- ・必要：時間があれば大和谷先生や下村先生に願います。
- ・ファシリテーターとなる先生は、お時間の都合がつく限り、全部いていただかなくてもそのコンポーネントだけ来ていただくという形で別途調整する。

<10月18日の具体的内容>

(1)開始時間

- ・日曜日から9時30分は早すぎるので、各時間を30分ずつずらす。
- ・18日の開始時間は10時。

(2)講義内容：前日課題のプレゼン

- ・前日の課題：木川田先生のグループワークで課題を出してもらい、それをプレゼンしてもらう。
- *10時～10時半：一人約5分×6人で、グループの代表に気づきのプレゼンをやってもらう。

(3)講義内容：理論体系の説明→より適当な表題も募集中。

- *10時半～11時半：小林先生に理論の説明をしてもらう。

[グループワーク課題との繋がり]

- 自分の抱く信念、リーダー像が、17日の講師の方々の話を聞くことにより変化し、今度は広い視野でカバーできる理論を聞くことによって「ああ、こういう風にもっと広い世界に行けるのかということが分かる。
- しかし、これからはそこで完全に自分の信念が変わるわけではなく、信念を変えていくには後の自分の体験を通じて変えていくしかないという話に繋がっていく。

(4)講義内容：Case in Point Part1~3について

- ・Case in Point=自分の体験を共有して失敗から学ぶ。
- ・理論は分かった、あるいは気づきの共有をして自分では分かったつもりでいるが、実際にやってみると誤ったことをやることが多い→これを説明しなければならない。

*Case in Pointは3つにする。

①Case in Point part1：小林先生、野村先生担当<11:40～12:30>

- *最初は経験した先生でなければ、知らない先生が急にしても困難である。

②Case in Point part2：大澤先生、大和谷先生担当<13:30～14:30>

③ **Case in Point part3** : 多胡先生、下村先生担当（但し多胡先生のご都合が悪い場合は別の先生へ打診） <14:40~15:50>

↑↑

この時間は本来振り返り<グループワーク>であったが、変更。

* 各 **Case in Point** の大体の時間配分<計 1 時間>

- 1) 10~15 分 : 受講者の体験
- 2) 10 分 : 事実の確認
- 3) 約 20 分 : Q&A
- 4) 10 分 : 先生からのお話

(5) 講義内容 : 全体の振り返り

- ・ **Case in Point** を 3 つにしたので、16:00~17:00 までを 17 日を含めた全体の振り返り。

(6) 事前準備課題

- ・ **Case in Point** で使用する、受講者の体験談を A4、1 枚でまとめる。
→頭が整理されるとしっかりした筋になり、無茶苦茶な説明を避けられる。
- ・ 一般の方が来て自分の直面した危機について話をする場合には、自己開示又は問題自身が非常に深刻なものであったりすると、話すことが問題になることもありうる。募集するときは自分自身で大変な思いをしたことについて予め人に話していいような範囲でまとめるようにする。

(7) その他留意事項

- ・ 主催を **GLA** にしているが、「協賛」もしくは「協力」もしくは「後援」として大阪大学の名前を付記する。
- ・ 但し「共催」としてはいけない。

以上